

第1～6学年 杉の子 学習指導案

指導者 渡 辺 隆 史

1 単 元 名 「アマゴの養殖 ～ 放流プログラム」 5月～11月予定

2 単元の見目標

- ・きれいな水に棲むアマゴを育てることで、環境保全への意識を高める。
- ・生き物の命について考えるきっかけとする。

3 単元構想図

【全校】

【お魚委員会】

【学級、個】

稚魚が学校へ来るまでの様子を紙芝居のお話にして皆に伝えよう。

去年は病気でたくさん死んじゃった。今年には元気に育ててほしいよ！

5月上旬：全校でアマゴを迎えよう「アマゴを迎える会」①

SGのSさんに上手な育て方を教わろう。

今年は全員がエサやりできる方法を考えてみよう。

お魚委員だけでなく、ぼくたちもアマゴにエサをあげたいな！

※アマゴにストレスを与えないのが大事。そのためにはね・・・。

全校アンケートで考えを募集しよう。

6月から：色別班ごとに交代でエサやりをしよう。「お魚日誌」をリレーして、責任を持ってやろう。

※アマゴが棲息できる水の適温は18℃。特に夏場にかけて水温が20℃を超えると要注意。常に新鮮な水の流出が不可欠。日誌に水温を記録することで気をつけるようにさせる。またエサは水面に広がるように与える。夏の直射日光が当たらないよう日よけを付け、アマゴの隠れ場所を作ってやる。酸欠に注意。

病気で〇〇匹死んじゃったよ。どうする？

夏休み：ウサギなどの飼育に来た子がアマゴのエサやりもしよう。

10月4日：アマゴの未来を考えよう「アマゴの未来を考える会2007」①

暑い日、アマゴは日陰にたくさん集まってきたよ。

※18年度の全校児童による討論会で、養殖したアマゴは「必要な分だけ食べて、その他は巴川に放流しよう」と決まった。19年度のテーマは「なぜアマゴを飼うのか？」その他。

アマゴがたくさんいる巴川にしたいから。卵を産んで増えるように。

元気にエサを食べてくれるとうれしい。かわいくなってくるから。

食べるため、っていうのが一番。塩焼きやアマゴ飯などの料理をやってみたいな。

SGのIさんの話「魚を育てる喜びについて」

上手に腹かきができるようになりたいな。

初めての子にアマゴつかみのコツを教えてあげよう。

秋のふるさとを味わう会での、1～3年生の活動（アマゴ）について話し合おう。②

SGのKさん、Mさんに、雄雌の見分け方や腹かきの上手な仕方を教わろう。

10月20日：秋の恵み アマゴを味わおう「秋のふるさとを味わう会」①（本時）

11月17日：アマゴの物語をもとにした群読を発表しよう「学習発表会」①

Kちゃんの書いた「アマゴ物語」を群読にして、みんなで発表しよう。

11月中旬：巴川へアマゴを放流しよう「アマゴを放流する会」①

釣り人につかまらないよう気をつけてね。

アマゴさん、また会おうね。大きくなるんだよ。

タマゴを産んでたくさんふえてよ。